

国立大学法人鹿児島大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

鹿児島大学は、自ら困難な課題に果敢に挑戦する「進取の精神」を有する人材を育成し、地域とともに社会の発展に貢献する知の拠点として、「進取の気風にあふれる総合大学」を目指している。第2期中期目標期間においては、学士課程の基盤となる共通教育の改善を図るとともに、専門教育の質を保証するシステムを確立すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、研究コアプロジェクトの新たな研究領域として「水」と「エネルギー」を立ち上げ、研究成果の社会還元等を行っているほか、学生自らが企画・運営・実施するプログラムを大学が支援する企画として「進取の精神チャレンジプログラム」を実施するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、獣医学教育の改善・充実を図ることを目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成25年度においては、北海道大学、帯広畜産大学、山口大学との獣医学教育に関する連携を推進するため、「4大学連携獣医学教育改革協議会」を設置し、欧米水準の獣医学教育の実施に向けて、欧米認証に必要な教育体制等に関する調査や、e-learningシステム等の学習環境の整備を行っている。

(機能強化に向けた取組状況)

機能強化の視点として、「全国的な教育研究拠点形成と地域活性化への貢献」を掲げ、ミッションの再定義で明らかになった大学の強みや特色及び社会的役割を踏まえ、総合大学としてのスケールメリットを生かした大学改革を進め、学長のリーダーシップによる全学的な組織再編、学内資源の再配分、人事給与システムの弾力化等ガバナンス機能の強化に向けた検討に着手している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成25年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- アドミッションセンターの機能を拡充し、継続的に優秀な学生を確保することを目的に、入学者選抜方法の改善、入学者選抜機能の検証、学生確保のための広報等を一体として行うこととしており、専任教員1名、学長補佐(入試統計担当)1名、事務職員1名を新たに配置し、体制の強化を図ることとしている。

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 平成 24 年度評価において評価委員会が課題として指摘した、大学院専門職学位課程について、学生収容定員の充足率が平成 21 年度から平成 25 年度において 90 %を満たしておらず、法科大学院については、平成 27 年度から学生募集を停止する決定をしていることから、今後、速やかに、学長のリーダーシップにより、将来構想をとりまとめることが求められる。

【評定】 中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、大学院専門職学位課程において学生収容定員の充足率が 90 %を満たさなかったこと等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- (①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の節減、
③資産の運用管理)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- (①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 3 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

- (①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 12 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 24 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 大学院共通科目外国語コミュニケーション教育コースにおいて、大学院修士課程全学生の授業評価アンケートや修士課程の全授業科目担当者アンケートの結果を受けて、平成 26 年度から、コミュニケーション能力を身に付けることに重点を置いた授業科目「プレゼンテーション・スキルズ」を開設することを決定しているほか、教育効果の向上を図る観点等から、同一の授業科目を文系向け、理系向けに再編し、受講生を分けて実施することを決定している。
- TOEIC 賛助会員に大学が加入することにより、学生が負担する公開テスト受験料の軽減を行う経済支援事業をスタートさせ、周知活動を積極的に展開した結果、受験者が前年度同期と比較して約 169 % 増の 293 名となっている。
- 学生自らが企画・運営・実施するプログラムを大学が支援する企画として「進取の精神チャレンジプログラム」を実施し、5 件を採択しているほか、プログラム成果発表会を学長、副学長等出席の下で開催している。
- 研究コアプロジェクトの研究領域として既存の 3 分野（「島嶼」、「環境」、「食と健康」）に加え、地域固有の水利用、水資源、水環境、及び洪水・土砂災害に関する研究コアプロジェクト「水」と、地域のバイオマスを活用した高品質バイオ燃料やバイオケミカル原料に転換するプロセス開発及び、分散型の再生可能エネルギーネットワークによる地域防災機能強化に関する研究を推進する「エネルギー」を立ち上げ、研究成果の社会還元等を行うこととしている。
- 40 歳以下の若手及び女性教員（女性は年齢制限なし）を対象に、研究業績等の提出を求め、提出のあった 107 名に対し、業績に応じて助成金（総額 903 万円）を措置するなど、若手・女性教員への研究支援を行っている。
- 「地域と協働する大学づくりシンポジウム in 鹿児島」において「鹿児島大学生涯学習憲章」策定ワークショップを開催し、地元自治体・卒業生・教職員・学生など約 100 名が参加し議論を重ねるなどして、生涯学習憲章を策定している。

附属病院関係

（教育・研究面）

- 医学部・歯学部附属病院の新病棟（C 棟）が平成 25 年 10 月に竣工し、合わせて新病棟内に県地域医療再生臨時特例基金を活用した「総合臨床研修センター」を開設した。本センターには、内視鏡手術など最新の各種シミュレーターによるトレーニングが可能な演習室や学習室などが配置されていることから、シミュレーターを利用した、学生や研修医及び院内外医療従事者に対する講習会や講義・実習も企画され随時開催されている。

(診療面)

- 医科と歯科との医療連携や周術期の口腔ケア等による歯科診療の推進等を図る歯科口腔ケアセンターを開設し、医科患者紹介窓口を一本化するとともに、医科外来診療棟内に、歯科処置が原因による医科的治療の延期や変更を少なくすることや、術後誤嚥性肺炎の予防による入院期間の短縮に寄与するため「歯のチェック室」を設け、入院前に患者の口腔内をチェックし、術前から介入し適切なケア・処置を行っている。

(運営面)

- 特定機能病院として質の高い医療を提供するとともに、診療請求に関し高得点が見込める分野の看護師育成を行うため、大学病院の経営戦略に基づき、認定看護師・専門看護師の資格を取得させた。また、資格取得期間について給与等の保証をしているため、病院の重要な課題である看護師確保対策になっている。